



志村第一小学校コミュニティ・スクール委員会だより

〈家庭数配付〉

令和6年11月28日

板橋区立志村第一小学校

校長 高橋 宏彰

第4回コミュニティ・スクール委員会を令和6年11月16日（土）に開催しましたので、次のとおり実施状況を報告します。

1 玉田委員長より

チャイム着席運動など、落ち着いた学校作りに向けた取組がされていて良かったです。学校のことに直接話して交流する機会を大切に、今後も学校のことを考えて行きたいと思います。

2 協議会の様子 熟議テーマ「校内研究の充実について」

研究主任より本校の校内研究の成果と課題について説明しました。その上で、コミュニティ・スクール委員の皆様より、本日の授業の様子や熟議テーマについて、次のようなご意見をいただき、意見交換をしました。



【梅原研究主任による校内研究の説明】

（熟議で出たご意見）

- 自由進度学習は理解の早い児童は自分で学習を進めることができ、有効であるが、理解に時間がかかる児童への対応を検討していくと良い。勉強や苦手なことを楽しいと思えるよう指導することが探究的に学ぶ児童の育成にもつながると考える。
- 自由進度学習を通し学んだことを理解するだけでなく、別の場面で活かしていけるような応用力を身に付けられると良い。
- タブレットの導入により、児童が主体となる学習の環境が整ったと考えられる。児童が主体的に学ぶことで、学ぶ意欲を高められるようにしてほしい。
- 個別で学習を進めるため、教師が児童の様子を見取る力が大切になると考える。
- 自ら学び方を決めることが難しい児童や探究までたどり着けない児童への対応をどうするのか。
→全体に「学びの手引き」を渡すなど、個別の対応が必要な児童には細かく進め方について指示することが大切になる。学びのゴールを明確にしておくことも大切になる。すべてを教えるのではなく大切な部分のみを伝えることで学び方を身に付けさせたい。
- 本日の図工の授業では児童が自主的に学んでおり、教師は児童の様子を見ながら声かけをしてよかった。生活科や総合は図工につながる部分があるため、同じように進められると良い。
- 探究をするうえで、児童が夢中になることや問いを持たせ続けることが大切になる。
- 児童が自ら考える時間をとれるよう、時間割の変更や授業の時間に余裕をもたせることが必要になる。
- 児童も環境も日々変化するため、変化に対応することが教師には求められている。
- 新しいことへの挑戦のため、失敗を恐れずに試行錯誤しながら実践してほしい。

各委員からの報告では、しいっちーフェス開催にあたりサポートへの感謝と、来年度の開催の在り方について、12月15日（日）に志村第二小学校で開催予定の、清水地域センター主催「お楽しみ会」、1月6日（月）に清水地域センターで開催される「書き初め教室」のお知らせがありました。今後も学校、家庭及び地域一体となった取組を進めていきます。